

つている。又士人が皆學問をして讀書人となつるのは、科學の發達する宋以後のことに屬する。著者はすでに士人階級の新陳代謝を認めてはいるが、この新陳代謝は相當融通性のあるものであり、縦に庶民との間に行われるのみでなく、横にも士人階級から逃れ出る處士逸民があり、又庶民階級からはみ出る流氓・匪

賊・遊俠等も數多くあつた。それらは云わば支那社會の裏面を形成し、絶えずそこから新思想や動亂の發端が起つている。殊に六朝の頃からすでに出處を同じと見る思想があり、近世の士人は公的には經學を奉じても私的には道佛に萎われ、思想的にも社會的にも自由な境地が開かれてゐる。宋學が尙古主義であることは歴史觀の上においてどあつて、内面的な自覺としては我と聖人を等しと視る域に達している。經學のみが自己擴大したのではなく、見方によつては道佛も亦自己擴大し、宋以後は三教一致の現實觀が文化の基調をなしている。表面停滯的に見える支那社會も、内面的には特殊な進展をなし遂げている。經學の固定性を以て直ちに支那社會支那文化の固定性を斷ずるわけにはゆかないと思う。

(昭和二四年九月・岩波書店刊・A・5・二八
五頁・三八〇圓)

——村上嘉實——

室賀信夫著

アメリカ國土論

戰後毎日のように我々は新聞紙上で、書店で、ラジオでアメリカ(U. S. A.)に關する事柄が書かれ、又語られるのを見、且聞いて來た。しかし總じてその與えてくれた知識は多く斷片的な根なし草にすぎず、廣い視野をもつ年來の勞作には餘り出會わなかつたように思ふ。此の書物は僅か一七〇頁足らずの小著ながら、その立場の特異な點、廣い視野を有する點に於て、これら數少い良著の中の一つに數え上げてよいように思われる。そしてまた今迄に單行本や叢書中の一冊として刊行された在來の地誌ともその内容に於て、又同じく環境論として一括して論じられるにしても、その基本的概念に於て趣を異にしている點が認められる。

もちろん、この書が地理書であり、且つな

お環境論的立場に立つ以上、先ず此の新大陸という地域のもつ自然の多様性について語られることは當然であろう。それはアパラチヤ——大西洋地域、ミシシッピ——五大湖地域、コルデイレラ——太平洋地域の三つに分けて概観される。次いでこの新大陸の大画布に壯大なアメリカの文化景觀を描きあげたアメリカ住民の構成が語られる。先ず複雑な人種の構成の、次に時間的、空間的に擴大の一端を辿つた人口動態の把握が行われる。そして著者は現在における人の密度の稀薄さをアメリカの若さの表徴とする常識的見解に反對して、アメリカの人口と國土とは第一次大戰以後平衡状態に達し、今後人口の激増に對應するためには、アメリカの社會經濟機構そのものの變革を必要とすると斷定されるのである。

さて素材としての自然は住民によつて價值づけられ、意味を與えられ、住民の手を通じて新しい自然につくりかえられる。その價值づけの基礎をなすものはその土地に構成される社會の體制、一層抽象的に云えば精神であると言ひ得よう。近代資本主義の申し子であ

るアメリカが此の國土の上に、古い傳統の束縛をうけることなくきずき上げたものは、まさしく最も典型的な資本主義社會であり、それは國土の隅々にまで、そしてあらゆる經濟組織の末端にまで餘す所なく行きわたつていたのである。最も根深く大地と結合している農業に於ても此の特性は認められ、素材的自

然と相即した形に於て、作物の専門化と地域的分化とが強く印象づけられる。そして分化した國土全體を貫いて流れているものが著者の所謂商業的精神であつて、この精神によつて分化した地域が個々に分立することなく、全體のなかの部分として位置づけられていると言える。この地域的分化と商業主義的統一とは農業のみではなく、また牧畜、林業、鑛工業等あらゆる分野においても認められ、それらを通じて各地域社會に、またそれを媒介として各地域の自然に投影されているのである。地域的分化とは機能的に云えば分業であるが、このような地域的分業がそれぞれの地域に於て確立され、そして全體の統一にもち來たされるためには、他の地域からの生活必需品の供給が確實に行われることが前提とな

るが、その紐帶としての機能を果し、都市と農村との極度の相互依存性に破綻を生ぜしめぬものが交通機關なのである。このような地域的分業と交通の發達はやゝ逆説的ではあるが、却つて各地域に於て使用される生活必需品の規格を統一するものである。アメリカ人は同じ雑語を食べ、同じ流行の衣服をまとい、同じ家具を備えている。セクシヨナリズムがユニフォームミティを生むわけである。

このアメリカ的統一にも核心となる地域が存在する。それを著者は所謂「東部」に求め、東部とその他の西部、南部等の諸地域との關係を大英帝國の英本國と植民地との關係、即ち近代國家とその植民地との關係に對比し、その類似性を指摘して、西進運動と南北戦争の意味をこの觀點から把握しようとして試みられている。

尤も著者はだからして東部と他の地域との間に收奪關係を認められるのではなく、たとえアメリカの國土的編制がこのような植民地的形成過程を経て、今なおその遺制を認められるにしても、アメリカの獨立が植民地的極樁よりの解放を求めたものであつた以上、む

しろアメリカの國土統一のモラルは平等と調和にあつたとされるのである。地域的分業と商業主義的統一の原理はこのアメリカンデモクラシーの精神であり、それは單に政治的、社會的現象たるに止まらず、現實の國土の上にしつかりときざみこまれ、根を下した存在であるというのが著者の論旨であつて、我々は「TVA」の著者リリエンソールの所謂「草の根もとの民主主義」と同様な見解をここに見出すのである。

この東部を核心とする地域的分業の國土體制はアメリカの勢力が太平洋をこえて以來、微妙な變化を示しつつあるように思われる。これこそアメリカの國土の上に現在より將來に亘つて示されるであろう興味ある問題であるが、著者はこれに關してはわずかに問題の指摘に止められ、著者獨特の地理的位置論は十分展開されていないように感じられる。さて以上やや冗長に過ぎるほど著者の論旨の發展を追つて來たが昭和四年以來一年の半ばを病床に臥し、ことに戦時中より一進一退の病と戦いながら、久しい沈黙を破つて此の一書を上梓された著者に先づ敬意を表した

い。勿論餘りにも概論的なこの書が著者のなし得るすべてであるとは絶対に考え得られぬところであるが、なお若干の不満をこの機会に申し述べさせていたきたい。

第一に著者の独自の環境論的立場がまだ十分には表わしつくされていなく、態に憚られることである。地理的世界即前歴史的世界と今なお考えている人もあるようだが、自然そのものも人類社會の創造的意志のはたらきかけを受ける以上時々刻々にその姿を變じ、人類社會を媒介として歴史的存在に轉化するものであることは言うまでもない。著者はこの歴史的自然の姿を地域的分化と商業主義的統一の二つの原理にもとずいてとらえられたが、歴史の余體的な流れの概観に止まつて、その變化の諸相の細部について論ぜられるところが餘りにも少かつたように思われる。同じ東部の地域について見ても、獨立戰爭當時、西進開始時等さまざまな時期の姿をとらえていただければ一層興趣深かつたのではあるまいか。

第二にアメリカンデモクラシーに於ける平等と調和の原理が國土の構成に具現されてい

ることは理解されるが、長所を強調するの餘り、やや理想的な面のみ走つて、その缺陷が見過されているのではなからうか。例えばアメリカにおける中農層の減少と大農、零細農の増加が直ちに農村内部の階級的對立とむすびつけらるべきでないことは勿論であるが、商業的農業の内包する弱點が資本主義の弱點として國土との關聯の上に於て更に深く追求するべきではなかつたらうか。説明と共に批判を行うことこそ今後の地理學に課せられた一つの課題であらうが故に。

この或意味での一面的見解は惜しむらくは此の著書全般を通じての傾向ではないであらうか。そして論旨の一貫していることは此の書の内容をすつきりしたものととはしているが、それが即つて此の書の内容を狭隘ならしめているうらみがある。これが第三の問題である。そして第四に著者の方法論は前著「印度支那」に比して、それほど發展を示していないのではあるまいか。同一の方法論による對象地域の單なる變更しか見られなかつたのは最も残念に感じられる。

以上思いつくままに若干の不満を述べた次

第であるが、この限られた内容しか盛れない小著に於て私の希望をすべてみたしていただくことは或は無理であつたかも知れず、またそれは決してこの著書の價値を低からしめるものでもない。小著ながら此の著書は在來の概説的地誌と全く異つた高い内容をもつており、その卓拔な構想と一貫した論旨は、一讀巻を措く能はざらしめるものを持つている。

冀うらくは、他日御健康の恢復を俟つてこの「エスキース」を堂々たる一幅のタブローとせられんことを。(一九四九年七月十日・大阪・三明社・B6一六六頁・一二〇四)

——河野通博——